



## 著者プロフィール

黛 執 (まゆずみ・しゅう)

昭和5年 神奈川県生  
昭和40年 五所平之助に俳句の手ほどきを受く  
昭和41年 「春燈」に人会、安住敦に師事  
昭和49年 第三回春燈賞受賞  
昭和59年 超結社同人誌「晨」同人参加  
平成5年 「春野」創刊、主宰  
句集『春野』『村道』『朴ひらくころ』ほか  
俳人協会評議員、日本文藝家協会会員

〈句集『野面積』より転載〉(2003年3月1日時点)

## 『野面積』(自選十五句)

黛 執

てふてふの散らかしてある田圃かな  
海見えてきし遠足の乱れかな  
声かけて貰ひたさうに田草取  
またひとり海を見に出る年忘  
音すべて餅となれり山始  
寒析の土をほろほろ野面積  
啓蟄の方へ片寄り生糞鮎  
川を褒め川を称へて夏料理  
嫁をいびり仏をいぢり暖かし  
梅挽いでいちにち蒼き風の中  
ぐんぐんと山が濃くなる帰省かな  
蘆刈の音とほざかる蘆の中  
痛さうに空晴れてをり冬さくら  
身の中を滝壺にして滝仰ぐ